

令和2年度第1回八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

1. 会議名 令和2年度第1回八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会
2. 開催日時 令和2年8月26日(水) 午後2時～午後4時
3. 開催場所 スパティオ小淵沢 1階 コンベンションホール
4. 出席者
 - (1) 八ヶ岳定住自立圏共生ビジョン懇談会委員
小林昭治、窪田福美、石川高明、飯田久美子、田口夕季、進藤玲子、小林俊一、時田源夫、利根川昇、名取孝三、清水正隆、三井悦子、今井田紀子、白倉繁、小池国明、小平雅彦、雨宮伊織、小平恒夫
 - (2) 北杜市
市長、企画部長、企画課長、人事課長、農政課長、林政課長、観光課長、商工・食農課食育・地産地消担当、まちづくり推進課長、道路河川課長、生涯学習課長、学術課長、中央図書館長、企画課ふるさと創生担当
 - (3) 長野県富士見町
総務課企画統計係長、総務課企画統計係
 - (4) 長野県原村
総務課企画振興係長、総務課企画振興係
5. 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 委嘱状の交付
 - (3) 市長あいさつ
 - (4) 会長、副会長の選任
 - (5) 議事
 - ① 第1次八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンの実績及び効果検証について
 - ② その他
6. 公開・非公開の別 公開
7. 傍聴人の数 1人

8. 審議内容

■同（5）議事 ①について、説明がなされた。

■質疑応答

【委員】

P7の出会いイベント開催事業の箇所、実績値が平成28年度が16組とあるが、隣の表では、6組とあるがこの違いは？

P2の外国人宿泊者数の目標が103千人に対し実績が52千人となっており、かなり力を入れた取組が必要になってくるが、今、外国人観光客は景色を見るというのがあるが、こういった体験ができるかといったことを重視している方も多し。このため、そうした情報をどのように伝えていくのか、どのような体験をこの圏域で展開していくのか何か展望があればきたい。

【北杜市】

1点目について、平成28年度から平成30年度の実績については、北杜市の数値。実績の欄は、北杜市、富士見町、原村の合計値。

2点目の観光客の取組については、ここ数年インバウンド対策として各種事業に取り組んでいる。また、調査も行いどのような取組ができるか検討している。

これまでは、市長をはじめとしたトップセールス、外国の方が滞在して楽しんでもらえるようなプランニングを行っている。また、情報発信については、確かに課題のひとつである。まずは、ホームページ、パンフレットの多言語化に取り組んでいる。いずれにしても、来年オリンピックを迎えチャンスとして観光圏としても取り組んでいきたい。

【委員】

国と連携して事業を行っているが、国としてもインバウンド対策に力をいれている。

2018年に3,100万人来ているので、帰られる方もいるので出国税の財源を活用してグローバルキャンペーンを実施した。その中で、欧米豪を対象にしたプログラムを作るということで、八ヶ岳観光圏も応募し、800万円の定額補助をもらいホームページやプログラムなどトレッキングを中心に取組を進めている。また、情報発信については、日本政府観光局と連携してホームページに掲載したり、旅行代理店と連携してやっていく。一時期68千人から32千人に落ち込んだものが、51千人まで回復している。観光圏としてもロングステイをしてもらえるような取組をしていきたいので、皆様の御協力をお願い

いしたい。

【委員】

八ヶ岳観光圏支援事業と南アルプスエコパーク推進事業のK P I が宿泊者数が設定されているが、すみ分けはどのようにしているのか

【北杜市】

八ヶ岳観光圏とエコパーク事業のK P I については、山梨県の観光客入込客数調査の数値を使っている。観光圏については、その調査の峡北圏域の数値を採用している。また、エコパークについては、エリアが南アルプスのエコパークのエリア内ということから、調査の甲斐駒エリアの数値を採用している。

【委員】

八ヶ岳観光圏の数値は、原村や富士見町も入っているのか？

【北杜市】

富士見町や原村から前年度数値を報告していただき、山梨県の調査数値と合算した数値を記載している。

【委員】

さきほど、観光の取組みに関する話があったが、なぜ伸びないのかという考えを教えていただきたい。

【委員】

なぜ伸びないのかについては、観光動態調査ではなくリピーター数。地元の人がいかに危機感をもっているか。富士見町はモトクロスで世界的に有名なところがあってたくさん外国人が泊まっているところがある。観光圏としても戦略会議などで地域の意識を変える取組を行っている。地域のブランド化を進め、通過点とならないように、例えば、富士山が見える、縄文文化の資源があるなど、いかに地域が意識して取組んでいくかが大事。そういう点でこちらは、まだ劣っているところがあり、行政も海外に積極的にトップセールスを積極的に行っていく必要がある。

今は少子高齢化で旅行マインドが低い。そうした中で、外国人観光客、特に欧米豪は、10日間から2週間の滞在が多い。そうはいつでも東アジアの方が依然として3泊位で多く、特に台湾は親日であるのでしっかりと集客し、自然を生かしたプログラムとして欧米豪をターゲットにしていく必要がある。

【議長】

- ① 八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンに係る事業の平成30年度達成状況について
- ② 八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンに係る事業の進捗状況（平成28年度～平成30年度）について
このとおり承認してよろしいか。

【委員】

異議なし。

■同（4）議事 ③について、説明がなされた。

【委員】

第1次の共生ビジョンでは、特別交付税措置があったが、第2次においても引き続き措置されるのか。

【北杜市】

国の推進要綱では、すみ分けがされていないので、第2次においても交付税措置がされる。

【委員】

11月に第3回目の懇談会を開催するとあるが、その時でも具体的な提案が可能か。

【北杜市】

取組内容を素案としてお示しする予定。そのときに協議してもらうことは可能。

【委員】

この3年間取組んできて少しずつ成果が上がっていると感じている。引き続き第2次でも行っていただきたいと考えている。

例えば、生活機能の強化に係る政策分野で医療、福祉、教育と並んでいるが、この定住自立圏は、北杜市が中心となって取組んでいただいております。今日も多くの担当課長さんがお越しいただいているが、福祉関係の部署の方はいるか。共生という観点では、福祉は欠かせないものだと思うので今後の出席など検

討できるか。

【北杜市】

今日出席している職員は、第1次共生ビジョンに関係する担当課が出席している。福祉の分野については、現状のビジョンにはないが、第2次において取組が可能な分野があれば取組が可能であるので、3市町村の担当課での協議が可能。

【委員】

文化財の活用ということで、縄文がこの八ヶ岳南麓では知名度が高く、活用をしていかなければならない。3市町村の特徴は、前にも言ったように棒道が貫いている。道というのは生活の面もあれば、黒曜石が運ばれた道でもあるという人もいる。そういった意味からの棒道を切り口にした取組もお願いしたい。

【北杜市学術課】

御指摘のように道というのは、縄文時代から現代に至るまで、人、もの、情報が行き交う重要なもの。道に纏わって色々な歴史文化が当然あるわけであるが、3市町村の文化財担当やそれに関係する人材の状況から、今の段階では難しいと考えている。とりあえず、縄文文化で地域の活性化を図りつつ、枝葉を伸ばしていくような形で、当面の課題として認識し取組んでいきたい。

【議長】

議事の③ 第2次八ヶ岳定住自立圏共生ビジョンについてよろしいか

【委員】

異議なし。

■同（4）議事 その他について、説明がなされた。

- ・郷土資料館による共同企画展のお知らせ
- ・第3回八ヶ岳森のコンサートのお知らせ
- ・原村の八ヶ岳スタイル de 婚活イベントのお知らせ

以上